

2019年度
金沢学院大学
学生の学修状況・学修成果等の検証
報告書
(概要版)

アドミッションポリシーの評価資料

①学ぶ意欲のある学生が入学してきたか

入学直後に実施したアンケート項目の中から、「入学理由／進学目的」を問う設問を選び、さらにその回答を「学修関係」、「学修以外」、「その他／目的なし」に分類し直して整理した。さらに、2019年度前期の出席率を算出した。

②これからもこの大学／短大で学び続ける意思がありそうか

入学直後に実施したアンケート項目の中から、「大学生活へのやる気」や「今後への期待感」、「満足度」を問う設問を選び、それらの回答を「やる気の有無」、「期待感の有無」、「満足度の高低」に分類し直して整理した。

③一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

入学直後に実施した学内共通の基礎学力確認テスト（英語・数学）の総合成績の平均を、大学全体・短大全体・学科別に算出し、さらに学科内で入試区分別に分類して平均を算出した。これらの平均を、大学・短大全体の平均と比較して+5点以上のものを「学内平均を上回った」、±5点の範囲のものを「学内平均と同程度」、-5点以下のものを「学内平均を下回った」と表記した。

なお、基礎学力確認テストの総合成績は、満点が65点、大学平均が42.2点（SD=10.11）、短大平均が37.5点（SD=9.26）であった。

○文学部

【文学科】

①学ぶ意欲のある学生が入学してきたか

入学直後のアンケートでは、入学理由に学修関係の目的を挙げた入学生が 77.8%で、中でも「興味関心のあることを深く学ぶ」こと（32.28%）や資格・免許の取得（25.9%）を第1の理由として挙げた者が多い。前期の出席率にも一部の学生（不登校傾向のある者）を除き、問題はない。

②これからもこの大学／短大で学び続ける意思がありそうか

入学直後のアンケートの「大学生活へのやる気」や「今後への期待感」を問う設問への回答から、今後の学生生活にやる気があり（96.3%）、それを楽しみにしている（87.3%）学生が多いことが明らかである。本学への入学に満足している学生は、87.3%である。

③一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

総合成績の学科平均は 45.9 点（SD=8.62）で、大学平均よりやや高くなった。入試区分別では、センター利用入試、一般入試の入学者の成績が特に高くなった。これらの区分の入学生の比率は 64.6%である。大学平均以上または大学平均並みの学生は、入学者の 85.7%を占める。大学平均－1SD 以下（入学者全体の下位 15.93%）に相当する学生の比率は、6.3%であった。

総合評価

以上①から③までの評価に基づき、今年度の入学生は学ぶ意欲が高く、大学での学修に必要な基礎学力も備えていると言える。したがって、アドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。

【教育学科】

①学ぶ意欲のある学生が入学してきたか

入学直後のアンケートでは、入学理由に学修関係の目的を挙げた入学生が 76.4%であった。教員免許取得のための学修を前提とした学科であるが、それを第1の理由として挙げている学生が過半数である（51.7%）。前期の出席率にも一部の学生（不登校傾向のある者）を除き、問題はない。

②これからもこの大学／短大で学び続ける意思がありそうか

入学直後のアンケートの「大学生活へのやる気」や「今後への期待感」を問う設問への回答から、今後の学生生活にやる気があり（97.8%）、それを楽しみにしている（100.0%）学生が多いことが明らかである。本学への入学に満足している学生は、86.5%である。

③一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

総合成績の学科平均は 47.2 点（SD=8.90）で、大学平均を上回り、全学科中で最も高くなった。入試区分別では、センター利用入試、一般入試の順に高かった。これらの区分の入学生の比率は 57.3%であ

る。その他の入試区分の入学者も大学平均並みの成績であった。大学平均－1SD 以下（入学者全体の
下位 15.93％）に相当する学生の比率は、3.4％であった。

総合評価

以上①から③までの評価に基づき、今年度の入学生は学ぶ意欲が高く、大学での学修に必要な基礎
学力も備えていると言える。したがって、アドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判
断する。

○経営情報学部

【経営情報学科】

①学ぶ意欲のある学生が入学してきたか

入学直後のアンケートでは、入学理由に学修関係の目的を挙げた入学生が 67.6％であった。特に「社
会に出てから役立つ知識・技術を身につける」こと（28.6％）や資格・免許の取得（21.6％）を第 1 の理
由として挙げている者が多いのは、学科の学びの特徴とも一致している。前期の出席率にも一部の学
生（不登校傾向のある者）を除き、問題はない。

②これからもこの大学／短大で学び続ける意思がありそうか

入学直後のアンケートの「大学生活へのやる気」や「今後への期待感」を問う設問への回答から、今
後の学生生活にやる気があり（93.0％）、それを楽しみにしている（84.1％）学生が多いことが明らかで
ある。本学への入学に満足している学生は、79.4％である。

③一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

総合成績の学科平均は 40.4 点（SD=9.69）で、大学平均をやや下回った。ただし、入試区分別では、
センター利用入試と一般推薦併願制の入学者は、大学平均を上回った。これらの区分の入学生の比率
は 43.0％である。全体の 57.9％は平均以上または大学平均並みの成績であった。大学平均－1SD 以下
（入学者全体の下位 15.93％）に相当する学生の比率は、18.2％であった。

総合評価

以上①から③までの評価に基づき、今年度の入学生は学ぶ意欲が高く、大学での学修に必要な基礎
学力も備えていると言える。したがって、アドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判
断する。

○芸術学部

【芸術学科】

①学ぶ意欲のある学生が入学してきたか

入学直後のアンケートでは、入学理由に学修関係の目的を挙げた入学生が 81.0%であった。中でも「興味関心のあることを深く学ぶ」ことを第1の理由として挙げている者が多い(48.1%)。芸術と関わる課程であるが、技術のみを求めて入学してきたわけではないことがうかがえる。前期の出席率にも一部の学生（不登校傾向のある者）を除き、問題はない。

②これからもこの大学／短大で学び続ける意思がありそうか

入学直後のアンケートの「大学生活へのやる気」や「今後への期待感」を問う設問への回答から、今後の学生生活にやる気があり(100.0%)、それを楽しみにしている(93.7%)学生が多いことが明らかである。本学への入学に満足している学生は、97.5%である。

③一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

総合成績の学科平均は 40.6 点(SD=10.27)で、大学平均をやや下回った。ただし、入試区分別では、センター利用入試(49.3)の入学者は、大学平均を上回った。この区分の入学生の比率は 19.0%である。全体の 67.1%は大学平均以上または大学平均並みの成績であった。大学平均－1SD 以下(入学者全体の下位 15.93%)に相当する学生の比率は、21.5%であった。

総合評価

以上①から③までの評価に基づき、今年度の入学生は学ぶ意欲が高い学生であると言える。大学での学修に必要な基礎学力に関しては、学科の約 20%に学力的な問題が示唆されるが、大半の学生は十分な基礎学力を備えていると言える。したがって、アドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。

○人間健康学部

【スポーツ健康学科】

①学ぶ意欲のある学生が入学してきたか

入学直後のアンケートでは、入学理由に学修関係の目的を挙げた入学生が 51.6%であった。学修関係以外に「部活動に打ち込む」ことを第1の理由に挙げる学生が多い(35.3%)が、他学科では、この数値は 10%を超えない。学科の性質上、運動部で活動する学生が多いことを反映している。前期の出席率にも一部の学生（不登校傾向のある者）を除き、問題はない。

②これからもこの大学／短大で学び続ける意思がありそうか

入学直後のアンケートの「大学生活へのやる気」や「今後への期待感」を問う設問への回答から、今

後の学生生活にやる気があり（96.1%）、それを楽しみにしている（90.2%）学生が多いことが明らかである。本学への入学に満足している学生は、86.3%である。

③一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

総合成績の学科平均は 35.7 点（SD=8.03）で、大学平均を下回った。入試区分別では、成績が高かったのはセンター利用入試と一般入試の入学者でいずれも大学平均を上回ったが、この区分の入学生の比率は 9.2%である。大学平均以上または大学平均並みの成績を取った学生は、22.2%であった。大学平均－1SD 以下（入学者全体の下位 15.93%）に相当する学生の比率は、31.4%であった。

総合評価

以上①から③までの評価に基づき、今年度の入学生は学ぶ意欲が高い学生であると言える。大学での学修に必要な基礎学力に関しては、学科の約 30%に学力的な問題が示唆されるが、学科特性として大学での活動意欲に重きを置く学科である。したがって、アドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。

【健康栄養学科】

①学ぶ意欲のある学生が入学してきたか

入学直後のアンケートでは、入学理由に学修関係の目的を挙げた入学生が 94.8%であった。管理栄養士養成の学科であり、資格・免許の取得を第 1 の理由に挙げる学生が多い（75.3%）。前期の出席率にも一部の学生（不登校傾向のある者）を除き、問題はない。

②これからもこの大学／短大で学び続ける意思がありそうか

入学直後のアンケートの「大学生活へのやる気」や「今後への期待感」を問う設問への回答から、今後の学生生活にやる気があり（97.4%）、それを楽しみにしている（90.9%）学生が多いことが明らかである。本学への入学に満足している学生は、88.3%である。

③一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

総合成績の学科平均は 46.2 点（8.78）で、大学平均よりやや高く、全学科中で 2 番目に高くなった。入試区分別では、一般推薦専願制、センター利用入試、一般入試の順に高かった。これらの区分の入学生の比率は 59.7%である。その他の入試区分の入学者も大学平均並みの成績であった。大学平均－1SD 以下（入学者全体の下位 15.93%に入る）に相当する学生の比率は、5.2%であった。

総合評価

以上①から③までの評価に基づき、今年度の入学生は学ぶ意欲が高く、大学での学修に必要な基礎学力も備えていると言える。したがって、アドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。

アドミッションポリシーに関する総合評価

以上の評価により、大学においては、アドミッションポリシーにかなわない学生が入学しているとは言えず、現在のアドミッションポリシーには大学の実情に合わない不適切な点はないと判断される。

ポリシー自体は適切に運用されており、現状ではポリシーに合わない学生募集はおこなっていない。ただし、一部の学科における学力の担保について、課題が残る。

カリキュラムポリシーの評価資料

○各学科における主要科目（教養・専門・卒業研究／卒業論文等）の合格率と履修放棄率

2018 年度に開講されたすべての科目について、成績評価の内訳をすべて整理した。

これらの科目の中から各学科長が学科の学びの中核となる主要科目を選び、これらの科目の成績評価の内訳の比率（秀・優・良・可）とこれらを合わせた合格率（単位修得率）を算出した。さらにこれらの科目の「放棄」と「取消」の数を合計して、学期当初の履修登録者に占める履修放棄率を算出した。

○文学部**【文学科】****①評価の対象とする科目**

必修科目（初年次教育，キャリア教育，第一外国語，専門基礎必修，プレ卒業研究演習）計 31 科目，選択科目から 39 科目，合計 67 科目を主要科目とした。なお，評価するカリキュラムは 2018 年度入学生まで適用されていたものとし，1 学科への改組（2015 年度）以前の旧 3 学科のカリキュラムの科目は含めなかった。

②主要科目の合格率と履修放棄率

必修科目では，初年次教育，キャリア教育，第一外国語，専門基礎必修，プレ卒業研究演習の各カテゴリーにおいて，科目の合格率の平均はいずれも 90%を超える。履修放棄率の最高も 4.4%であり，学生は本学科の学修の柱となる基幹科目を順調に学んでいると言える。選択科目についても，受講生の過半数が「可」であったり，逆に高い評価ばかりであったりなどの成績評価の偏り，および合格率の偏りは，すべての科目において見られない。

総合評価

本学科では，対象とした主要科目の履修につまずきは見られず，学生は順調に学んでいると言える。したがって，評価対象としたカリキュラムに学修計画上の無理はないと判断する。

【教育学科】**①評価の対象とする科目**

専門科目および教養科目における必修科目 15 科目，専門科目の選択科目 19 科目，合計 34 科目を主要科目とする。なお，本学科は 2018 年度開設であるため，現 2 年生の 1 年次の成績を評価対象とする。

②主要科目の合格率と履修放棄率

対象とした科目では，合格率が 60%に満たない科目や放棄率が 10%を超える科目はなく，学生は順調に学んでいると言える。また，評価に大きな偏りはなく，科目の特性を反映した評価になっており，また，学生の学びを適切に評価していると考ええる。

総合評価

本学科では，対象とした主要科目の履修につまずきは見られず，学生は順調に学んでいると言える。まだ完成年度を迎える前であり，学科全体の学修が進んでいる途上であるが，現状の評価からはカリキュラムに学修計画上の無理はないと判断する。

○経営情報学部

【経営情報学科】

①評価の対象とする科目

評価の対象とする科目は、2016 年度入学生から適用される新学科カリキュラムに含まれる科目とし、2015 年度までの入学生に適用されていた旧学科のカリキュラム科目は含めない。また、新カリキュラムのうち、再履修者向けのみを開講した科目は含めない。具体的には、必修科目（初年次教育、キャリア教育、英語、情報処理機器操作、専門基礎）16 科目、専門選択科目 21 科目（経営系、経済系、経営情報系科目）、合計 37 科目を主要科目とする。

②主要科目の合格率と履修放棄率

対象とした科目では、合格率が 40%に満たない科目はなく、低評価に集中（「可」の比率が受講生の 60%以上）している科目もなかったが、高評価に集中（「秀」、「優」の合計が受講生の 60%以上）している科目が 4 科目あった。また、履修放棄率が 10%を超える科目が 3 科目あった。高評価科目の中には初年次教育科目が多くあり、学修の動機づけの観点からやむを得ない面もある。履修放棄率の高い科目については、講義内容や到達目標の見直しを検討したい。

総合評価

本学科では、対象とした主要科目の履修に大きな齟齬は認められず、学生は概ね順調に学んでいると認められる。ただ、履修放棄率の高い科目がいくつかあるので、原因の分析をおこなうとともに、講義内容や到達目標の見直しを検討したい。

○芸術学部

【芸術学科】

①評価の対象とする科目

一般教養科目のうち必修 9 科目（初年次教育、キャリア教育等）、外国語科目の必修 2 科目、共通専門必修 1 科目、専門に分かれる前の重点科目 15 科目、各分野において卒業制作・研究につながる基幹科目 28 科目、合計 55 科目を主要科目とする。なお、教養科目に含まれる「就職対策講座」（キャリア教育科目）は選択科目であるが、芸術学科では必修科目として位置づけ、必ず履修するよう指導をおこなっている。

②主要科目の合格率と履修放棄率

対象とした科目では、合格率が 80%以下の科目はない。履修取消の手続きのミスにより、成績が「放棄」となった学生がいた。成績評価においても、過半数が「可」であるような科目は見当たらず、高い評価に偏っている科目もなかった。学生は概ね順調に学んでいると推測される。

総合評価

芸術学科においては、対象とした主要科目の履修においてつまずきや著しい理解不足はなく、学生たちは堅調に学んでいると言える。したがって、評価対象としたカリキュラムに学修計画上の困難・不備はないと判断する。

○人間健康学部

【スポーツ健康学科】

①評価の対象とする科目

必修科目（教養、外国語、専門必修）22 科目を主要科目とする。再履修者向けにのみ設置された科目は含めない。なお、評価するカリキュラムは、2018 年度入学生まで適用されていたものとする。

②主要科目の合格率と履修放棄率

対象とした科目では、合格率が 80%に満たない科目や放棄率が 10%を超える科目はなく、学生が順調に学んでいると言える。成績評価も、受講生の過半数が「可」である科目は見当たらず、また、高い評価にばかり偏っている科目も見当たらない。

総合評価

スポーツ健康学科では、成績評価を正規分布するよう心がけている。対象とした主要科目の履修につまずきは見られず、学生は順調に学んでいると言える。したがって、評価対象としたカリキュラムに学修計画上の無理はないと判断する。

【健康栄養学科】

①評価の対象とする科目

教養科目および外国語科目 9 科目、専門基礎科目（社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康）24 科目、専門実践科目（基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、求職管理経営論）22 科目の計 55 科目を主要科目とする。本学科は 2016 年度設置であるため、評価するのは 2016 年度入学生の 3 年次までのカリキュラムである。

②主要科目の合格率と履修放棄率

対象とした科目では、合格率が 80%に満たない科目や放棄率が 10%を超える科目はなく、学生が順調に学んでいると言える。成績評価については、教養科目、外国語科目、専門基礎科目では、ほとんどの科目が「秀」～「可」までの評価が均等または正規分布に近い分布となっている。一方、専門実践科目に含まれる科目に、評価が「良」以下に偏る科目が複数みられる。特に、一部の実験科目および実習

科目において、この傾向が顕著である。

総合評価

対象とした主要科目の履修につまずきは見られず、学生は順調に学んでいると言える。したがって、評価対象としたカリキュラムに学修計画上の無理はないと判断する。しかしながら、実験・実習科目に低い評価が多数見られることについては、今後の精査が必要である。

カリキュラムポリシーに関する総合評価

大学においては、カリキュラム（教育課程）は、カリキュラムポリシーに沿って編成されている。このカリキュラム編成に何らかの不備や瑕疵があるならば、学生の学びは順調に進まないことが予測される。また特定の科目に低評価が集中する、あるいは履修放棄率が極端に高くなるなどの結果が見られた場合、段階を踏んで学ぶように設計されたカリキュラムの中に、つまずきを誘発する要素（その段階にそぐわない内容や難易度）があると考えられる。今回の各学科の教育成果の評価においては、このような問題点は見当たらなかった。

したがって、カリキュラムの改訂ならびにカリキュラムポリシーの見直しが必要になるような状況は存在せず、ポリシー自体は適切に運用されており、現状ではポリシーに合わない教育課程にはなっていないと言える。ただし、一部の学科に見られた履修放棄率の高さ並びに低い評価への偏りについては、今後の詳細な分析を必要とする。

ディプロマポリシーの評価資料

①卒業研究／卒業論文／卒業制作の評価

各学科の科目から、必修の卒業研究、卒業制作を選び、その合格率、履修放棄率、各成績の内訳を算出した。

②卒業率（４年間で学修達成率）

2015 年度に入学し、2018 年度に 4 年間で教育課程を修了して卒業した学生の数、その学年が入学した当初の入学者数に対する割合で示した。

③就職内定率

各学科の就職希望者に対する内定者数の割合で示した。

○文学部

【文学科】

①卒業研究／卒業論文／卒業制作の評価

学科全体で 129 名（旧学科生含む）が受講し、うち放棄が 1 名あったのみで、履修放棄率は 0.8% であった。評価割合は、「秀」が 12.4%、「優」が 35.7%、「良」が 33.3%、「可」が 17.8% であった。放棄以外に不合格者はいなかったため、合格率は 100.0% であった。

②卒業率（４年間の学修達成率）

2015 年度 4 月に入学した学生は 138 名であった。このうち 87.0% に相当する 120 名が、4 年間で教育課程を修了し 2018 年度 3 月に卒業した。

③就職内定率

就職希望者 126 名（旧学科生含む）に対して、内定を得た者は 126 名で、内定率は 100.0% であった。

総合評価

以上①から③までの評価に基づき、2018 年度卒業生は、ディプロマポリシーにかなう学生であったと判断する。

【教育学科】 完成年度を迎えていないため、2018 年度の卒業生はいない。

○経営情報学部

①卒業研究／卒業論文／卒業制作の評価

該当科目なし。

②卒業率（４年間の学修達成率）

【経営ビジネス学科】

2015 年度 4 月に入学した学生は 118 名であった。このうち 85.6% に相当する 101 名が、4 年間で教育課程を修了し 2018 年度 3 月に卒業した。

【経営システム学科】

2015 年度 4 月に入学した学生は 52 名であった。このうち 88.5% に相当する 46 名が、4 年間で教育課程を修了し 2018 年度 3 月に卒業した。

③就職内定率

【経営ビジネス学科】

就職希望者 96 名に対して、内定を得た者は 86 名で、内定率は 100.0% であった。

【経営システム学科】

就職希望者 44 名に対して、内定を得た者は 44 名で、内定率は 100.0%であった。

総合評価

以上②、③の評価に基づき、2018 年度卒業生は、ディプロマポリシーにかなう学生であったと判断する。

○美術文化学部／芸術学部

①卒業研究／卒業論文／卒業制作の評価

【美術学科】

美術学科の「卒業研究」は、日本画、洋画、漆芸、陶芸の 4 分野である。日本画 7 名、洋画 5 名、漆芸と陶芸各 1 名の合計 14 名が履修し、全員が単位を修得した。「秀」1 名、「優」6 名、「良」3 名、「可」4 名であった。

【メディアデザイン学科】

メディアデザイン学科では「卒業研究Ⅱ」を 39 名が履修し、全員が単位を修得した。「秀」10 名、「優」8 名、「良」10 名、「可」11 名であった。

②卒業率（4 年間の学修達成率）

【美術学科】

2015 年度 4 月に入学した学生は 14 名であった。このうち 92.9%に相当する 13 名が、4 年間で教育課程を修了し 2018 年度 3 月に卒業した。

【メディアデザイン学科】

2015 年度 4 月に入学した学生は 42 名であった。このうち 90.5%に相当する 38 名が、4 年間で教育課程を修了し 2018 年度 3 月に卒業した。

③就職内定率

【美術学科】

就職希望者 12 名に対して、内定を得た者は 12 名で、内定率は 100.0%であった。

【メディアデザイン学科】

就職希望者 34 名に対して、内定を得た者は 34 名で、内定率は 100.0%であった。

総合評価

以上①から③までの評価に基づき、2018 年度卒業生は、ディプロマポリシーにかなう学生であったと判断する。

○人間健康学部

【スポーツ健康学科】

①卒業研究／卒業論文／卒業制作の評価

スポーツ健康学科では、必修科目の「専門演習Ⅱ」が卒業研究に相当する。履修者の全員（退学者1名除く）が合格した。「秀」が40.2%、「優」が29.4%で、約70%が「優」以上の評価であった。「良」が22.5%、「可」が6.9%であった。合格率は100.0%（退学者除く）であった。

②卒業率（4年間での学修達成率）

2015年度4月に入学した学生は107名であった。このうち91.6%に相当する98名が、4年間で教育課程を修了し2018年度3月に卒業した。

③就職内定率

就職希望者92名に対して、内定を得た者は92名で、内定率は100.0%であった。

総合評価

「専門演習Ⅱ」は、退学者以外に放棄した学生はおらず、「秀」が全体の40%を占めた。熱心に卒業研究へ取り組む優秀な学生が多く、順調な学修成果を上げたと判断する。

以上①から③までの評価に基づき、2018年度卒業生は、ディプロマポリシーにかなう学生であったと判断する。

【健康栄養学科】 完成年度を迎えていないため、2018年度の卒業生はいない。

ディプロマポリシーに関する総合評価

以上の評価により、大学においては、現在のディプロマポリシーに実情に合わない不適切な点はないと判断される。ポリシー自体は適切に運用されており、現状ではポリシーに合わない学生には学位を授与していないといえる。